

助産師教育の変遷とともに歩む名古屋市立大学助産師同窓会 「桜朋会」の発展に向かって

NAGOYA CITY UNIVERSITY Midwifery Alumni Association is Developing
"OUHOU" Alumni Association as Changes Occur in Midwifery Education

名古屋市立大学大学院看護学研究科 性生殖看護学・助産学分野
教授 北川 眞理子

助産師教育課程の誕生と短期大学専攻科教育

名古屋市立大学での看護教育は、昭和24年4月に名古屋女子医科大学付属高等厚生女学校として開校された。その後、名古屋市立大学看護短期大学部として昭和63年4月に開学となり、3年課程の課程完了を待って、平成3年4月に短期大学部専攻科助産学専攻の設置がなされた。入学定員を15名とし、平成13年度に閉学するまでの11年間で163名の修了生を輩出した。

修了生は施設助産師、開業助産師、教員として活躍されている。

学士をもつ助産師の育成

平成11年4月、看護系大学としては全国第62番目に看護学部が設置され、看護師教育課程・保健師教育課程・助産師教育課程の3課程がスタートした。短期大学を閉じた翌年の平成14年度に初めて、学士助産師を世に送り出した。今年で学部助産師教育8年目を迎え、昨年までの卒業生は35名であり、施設助産師や大学助教として活躍されている。学部での助産師教育は平成22年度をもって閉学予定である。

修士をもつ助産師の育成：大学院博士前期（修士課程）での助産師教育

本学は、新しい大学教育のあり方を高等教育9年間スパンで捉え、検討を進めていた。看護学部が抱える教育的課題は、看護職教育課程の統合カリキュラムを含めた指定規則による縛りと、大学教育であるが故に、大学設置基準に係る要件を満たす必要性、総合大学のもつ教養教育と専門教育との特有な課題などを有しており、大学の独創性を表出しようにも過密カリキュラムに拍車がかかる状況にあった。医療を取り巻く社会状況では、高度化や看護職者の実践力の弱さの指摘、離職問題、医師数・看護職者の不足、臨床現場等で看護職者が抱えるケア実

践力や専門職としての判断力に対する不安・ジレンマ、キャリアアップ等、相談件数の増加などが生じていた。このような現実を直視し、大学の使命として、どのような人材を育成すべきなのか、議論が重ねられた。看護基礎教育の充実を重要視し、時代の要請に応えられる人材の育成を積極的に図るために、学部教育の見直しと大学院博士前期・後期の教育研究分野の教育研究意義について将来を見据えた組織・教育の改革が進められた。

助産師教育は、学部統合カリキュラムの一角に置かれていたが、過密カリキュラムのもとで、真に助産師が持つべき実践能力を有する人材育成に繋がっているのか、疑問視しなければならない状況下にあった。教育現場に立つ私たちは助産師教育の充実を図り、適確に社会のニーズに応えられる助産実践能力をもつ人材の育成と、助産師が活動する臨床・臨地での助産上の問題や課題に対し解決できる能力をもった人材の輩出が急務であると考え、研究の基礎的素養を有する人材育成を視野に入れ、学部教育から大学院教育に移し、修士の学位を有する助産師の育成を目指し、平成20年4月に、公立大学では全国初の設置となった。助産師の大学院教育は天使大学、聖路加看護大学、国際医療福祉大学、日本赤十字看護大学、東京女子医科大学に続き日本で6番目の開設である。

表1に、性生殖看護学・助産学分野の在籍者数の年次推移と修了生の進路について表記した。今日までに、院生は博士前期・後期合わせて、私どもの分野からは9名を大学教員等教育職で送り出している。修了当時、専門学校教員として現職継続されたが、現時点では大学教育職に採用されている。平成20年度に開設した助産学分野は「修士論文コース」と、実践コースとしての「助産師国家試験受験資格取得コース」と、助産師の有資格者が、実践力アップを目指す「アドバンスコース」がある。この実践コースは、学部助産のジェネラルな実践的レベルとは異なる上級の実践教育課程として、位置づけてい

表1 本看護学研究科博士前期・後期課程 性生殖看護学・助産学分野の在籍者数の年次推移と修了生の進路

年度	分野 在籍者 数計	博士前期課程			博士後期課程	修了生の進路
		性生殖 看護学分野	助産学分野			
		H15年度設置	修士論文 コース (助産師資格要)	アドバンス コース (助産師資格要)	国家試験受験 資格取得 コース (看護師資格要・ 見込み含む)	健康支援看護学 分野： 性生殖看護学 教育研究領域 [H22年度より性生 殖看護学・助産学教 育研究領域に変更]
H15	1	1 (助産師)				
H16	3	1 (助産師) 1 (看護師)			H17年度設置	1 (大学教員)
H17	5	2 (助産師)			1 (助産師)	2 (大学教員)
H18	5	1 (助産師)			1 (看護師)	1 (教育職継続)
H19	7	2 (助産師)			1 (助産師)	1 (後期進学)
H20	19	2 (助産師)		H20年度設置 10	2 (助産師)	2 (大学教員)
H21	29	0		10	1 (助産師)	1 (教育職継続) 1 (大学教員)

*長期履修制度導入中

数字：入学者数

る。今後、この実践コースの修了生がどのように評価されるのか、期待したいところである。

助産師同窓会の統合に向けて

助産師教育の各課程修了生が集う「助産師同窓会」は、「名古屋市立大学看護短期大学部専攻科助産学専攻同窓会」と、「名古屋市立大学看護学部助産学同窓会（桜朋会）」の2つがある。今年、6月に、短期大学部専攻科の同窓会の総会において、同窓会員の3分の2以上の承認を得て、名古屋市立大学同窓会「桜朋会」への名簿移管が行われることが決定した。

桜朋会は「名古屋市立大学看護短期大学部専攻科助産学専攻同窓会」、「名古屋市立大学看護学部助産学同窓会」と、「名古屋市立大学大学院看護学研究科助産学同窓会」の3つが合わさって「名古屋市立大学助産学同窓会（桜朋会）」として平成22年11月27日にスタートする運びである。

平成22年3月には、修士の学位を有する助産師の誕生が待たれる。「名古屋市立大学大学院看護学研究科助産学同窓会」に入会する修了生は、性生殖看護学分野および助産学分野の修了生である。同窓会の統合に向けて、この大学院の助産学同窓会と、学部助産の同窓会との最終調整と総会決議が残っている。

名古屋市立大学助産学同窓会の目的と事業

本会の目的および事業については、来年度の総会で審議する運びとなるが、現在の学部助産学同窓会（桜朋会）の会則を基とすると、「会員相互の親睦と名古屋市立大学助産学の発展を計り、会員の生涯学習および地域社会への貢献等、事業の推進にある。」と表すことができる。

一般的に「同窓会」とは、親睦会行事に等しいもので

あると捉えられる。専門職を輩出する教育機関として、同窓会においても一工夫を凝らしたいと考え、生涯学習的な要素を盛り込むことや、子育て後の職場復帰時のサポート、情報交換など会員の意識向上・維持に多少なりとも応えられる同窓の会でありたいと考えている。ひとり一人の会員の発展は、同窓会の発展でもある。講演会や事例発表会等をすでに実施しているが、研修会の企画などが候補に挙がっているので、今後、活動の拡充を図っていきたい。

同窓会の運営に対して、現在は、教員が卒業生を全面的にサポートする形で卒業生とともに同窓会の役員に就いている。軌道に乗るまでの役割として認識していただき、卒業生や修了生の活躍を期待し、全面的に移譲できる日が早く来るのを願っているところである。

短期大学の助産師教育の開始から数えて、今年で19年目にあたる。20歳、成人として巣立つ年が、学部での助産師教育を閉じる年となるのも、意味深いものである。

末尾であります。本学に助産師教育の道を開き、修了生の輩出にご尽力くださいました歴代教授で在らせられる小木曾みよ子先生、三井政子先生に感謝を申し上げます。